

## 2019年3月期第3四半期決算説明資料

開催日：2019年1月30日（水）16:30（今回、説明会の開催はございません）

### 【2019年3月期第3四半期連結決算の概要】

- スライド1では今回の決算のポイントを端的に整理しております。
- 東京電力グループの販売電力量が減少したものの、燃料費調整額の増加や、東京電力グループ外からの託送収益の増加などにより、売上高は増収となりました。
- 経常損益は、グループ全社を挙げた継続的なコスト削減を実行した一方、競争激化による販売電力量の減少や燃料価格の上昇などにより、減益となりましたが、経常損益、四半期純損益は6年連続の黒字を確保いたしました。
- また、今回、2019年3月期の業績予想の見通しを修正しております。
- 売上高は、燃料費調整額の増加や、東京電力グループ外からの託送収益の増加などにより、昨年10月30日に公表した見通しから増収を見込む一方、経常損益は、燃料費や購入電力料の増加などにより減益を見込んでおります。
- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比で8.2%増の4兆5,532億円と「増収」、経常損益は10.6%減の2,451億円と「減益」となり、特別損益を加えた四半期純利益は、1,005億円となりました。

### 【セグメント別のポイント】

- スライド3、4では、各セグメント別の業績をご説明いたします。
- まず、東京電力ホールディングスの業績です。スライド4のセグメント別の売上高と経常損益の表をご覧ください。
- 3基幹事業会社からの経営指導料等の見直しによる取引高の減少や、主にエネルギーパートナー向けの販売電力料が減少したことにより、売上高は前年同期比266億円減収の5,855億円となりました。
- 一方、受取配当金の増加により、経常利益は、239億円増の1,789億円となりました。
- 次に、東京電力フュエル&パワーの業績です。
- 主にエネルギーパートナー向けの販売電力料の増加などにより売上高は前年同期比1,574億円増収の1兆4,542億円となりました。

- また、コスト削減努力などによる固定費の減少に加え、子会社利益が増加したものの、燃料価格の上昇による燃料費の増加などにより、経常利益は415億円減の34億円となりました。
- 続いて、東京電力パワーグリッドの業績です。
- エリア需要の増加などにより託送収益が増加したことから、売上高は前年同期比490億円増収の1兆2,957億円となりました。
- 一方、委託費・支払利息などの減少により、経常利益は385億円増の1,631億円となりました。
- 最後に、東京電力エナジーパートナーの業績です。
- 燃料費調整制度による販売単価の上昇などにより、売上高は前年同期比2,314億円増収の4兆2,355億円となりました。
- 一方、競争激化によりグループ全体の販売電力量が減少したことなどにより、経常利益は364億円減少し、393億円となりました。

#### 【連結特別損益の概要】

- 特別損益については、スライド5をご覧ください。
- 特別損失として、原子力損害賠償費を1,097億円計上いたしました。

#### 【連結財政状態の概要】

- 連結財政状態については、スライド6をご覧ください。
- 自己資本比率は、総資産残高が減少した一方、四半期純利益の計上により純資産が増加したことなどから、前年度末より1.0ポイント改善し22.1%となりました。

#### 【2019年3月期業績予想】

- 最後に、スライド7は2019年3月期の業績予想でございます。
- 売上高は、燃料費調整額の増加や、東京電力グループ外からの託送収益の増加などにより、昨年10月30日に公表した見通しから2,290億円増収の6兆3,280億円程度になる見通しへと修正しております。
- また、経常損益については、売上高の増収があるものの、燃料費や購入電力料の増加などにより350億円減益の2,500億円程度になる見通しへと修正いたしました。

**【参考資料（スライド8以降）、補足資料（スライド13以降）】**

- スライド8以降は参考資料および補足資料です。

以上